

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域にとけこんだホーム、地域との交流がはかられることとする。</p>	<p>○</p> <p>外部からボランティアで琴と踊りをして頂いている。正月は毎年近くの神社に初詣に行き、又夏にはよみやに行ったり、町内ねぶた祭り参加など、普通の事として取組んでいる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる</p>	<p>運営推進会議、町内会広報等により地域の催し物について知り、参加している。</p>	<p>○</p> <p>近隣のデパートや、萱野茶屋高原などに行って、お茶やおでんなど食べたり、普通の事を実践している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取組んでいる</p>	<p>地域の催し物に、入居者と共に参加し、苑たよりを家族に配布している。</p>	<p>○</p> <p>地域包括センター、他グループホーム合同で地域の催し物に参加し、寸劇等により認知症ケアの良い例、悪い例などを演じて地域の人々に理解をして頂きたく、取組んでいる。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>運営推進会議での会長、副会長、又近所の方々とは顔馴染みですが、他近隣の方とは挨拶程度の付き合いをしている。町会広報等により、地域の行事や消防団との交流、町内ねぶた祭りなどにより近隣の人々と交流に努めている。現在キャラバンメイト活動の説明を聞き、参加する予定です。</p>	<p>○</p> <p>夏祭りや苑内催し物に参加して頂きたく、町内広報等で案内して行く予定です。キャラバンサポーター100万人に参加する為の講習を受ける。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価で良いと思っていた項目でも、外部評価で指摘を受けた部分については、改善するように努めている。</p>	<p>○</p> <p>地域との交流のありかたについて、包括支援センターの力を借り、取組んでいきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>おもに、運営推進会議では町内会行事の参加、又防災等、火災時の非難訓練等について相談を受けている。</p>	<p>○</p> <p>火災時、災害時のとっさの行動について、話し合っている。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議議事録等により地域や、苑の問題点を伝えている。又市、県からの文章を職員に周知し、考え方や運営に役立てている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議だけでなく、問題点、疑問点等を解決すべく担当者より話を聞いている。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度について、研修等で学んでいる。</p>	<p>○</p> <p>福祉権利擁護事業について、学んで行きたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止法について、研修で学んでいる。又事業所内でも虐待が起こらないよう、職員に研修内容を話し、理解させている。</p>	<p>○</p> <p>研修内容は朝のミーティングに復命書として皆に説明し理解してもらっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当初よりボランティアによる催し物、家族と共の忘年会等の際は、1,2階の職員、利用者が一緒になって観覧する機会が多く、声掛け等にも配慮しているので、馴染みの関係が保たれている。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は本人の希望や会社の指示によって、受講するよう促している。又職員の勤務年数によって受講できる研修は申し込んでいる。</p>	○	<p>常に職員に働きかけ、研修を受講してスキルアップするように話している。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センターを中心に、3グループによる寸劇の公演や他施設での催し物を利用者と一緒に観覧している。又運営推進会議に出席して頂きキャラバン隊の講義をして頂いている。</p>	○	<p>地域包括内のグループホームとは交流は有りますが、他の施設との交流も図っていきたいと思います。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>普段より職員と他愛のない会話や、身近な問題など話題を共有する環境に努めている。又職員との忘年会や食事会などで意見交換をしている。又購入した温泉券で入浴してもらい、リフレッシュをするように促している。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>国家資格を取得した際は、資格手当を支給している。又働きながら資格を取得しようとする場合は時間を調整している。又良い行動、良いきずきをした方には、ミーティングで皆の前で褒めるようにしている。</p>	○	<p>向上心は本人の努力によって築き磨かれるものだと思います。努力、協力する姿勢がみられるのであれば、応援したいと思います。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員の信頼関係で成り立っている事を各職員に徹底させ、家族はキーパーソンである事を認識させている。	○	一部の家族と携帯で体調、訴え等をメールにて連絡して対応している。
26	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とのより良い関係を築く為に定期的な面会の確保に努め、その日の利用者の出来事を家族に伝える事を心掛けている。		
27	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に出来るだけ、外出、外泊を御願ひしています。自宅に戻る事がなよりの利用者にとっては、必要なことと思っている為です。家族には面会の機会を出来るだけ多く会いにきてくださいと御願ひしています。		
28	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブル発生時には、他の入居者に配慮しながら仲裁に入り、当事者の話を聞き原因を把握しその解消に努めている。トラブルの内容は記録に残したり申し送り等で全職員に周知し対応を統一し入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。		
29	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族に対して写真を整理しアルバムにして、送っている。死亡して退所した利用者が多かったので、継続的に関わりを必要としなかった。	○	ケアプランを送ったり、近況を手紙等で送っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来る限り、本人の意志を尊重して、楽しく安心して生活を送って頂けるよう援助するよう努める。</p>	○	<p>身体の障害がある利用者の方の思いを知りたくて、とことん付き合っていたら、心の変化が見られ安定した。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時や面会時に家族からの聞き取りの他に入居者からも日々の会話等の中から生活歴等を聞き、本人にとって大切な経験や出来事を知るように努めている。</p>	○	<p>職員とカンファレンスをし、伝えている。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の生活パターンの把握に努めると共にバイタルチェック、日々のコミュニケーションから健康状態のチェックにより早期異常を発見出来るよう努める。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランを作成する為に、本人より聞き取り、家族の了承を頂いて、口腔ケア(入れ歯)、マッサージ等の治療を施すようなケアプランを作成している。</p>	○	<p>ケアプラン作成の前に、気づきの部分を取り入れて作成するようにしている。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者に変化が生じた場合は、職員が其のつど見直しをして、家族との相談をしプランを作成しなおしている。</p>	○	<p>入院後のケアプランについて、医師の指導を重視し作成している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々の特徴を踏まえた上で、昼夜を通じて詳細に記録している。記録は個人ファイルに閉じて保管し入居者の状況等の変化に応じて見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事の日と入浴が重なった場合入浴日を変更し行事を優先している。天候が良い日は、郊外に外出する事を職員が決定して、行動している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴、踊り、市民センター祭り、町内会ねぶた祭り、初午、神社の初詣、町会広報による駐在所だより、盆踊りなど各地域の方々にはお世話になっており、これからも相互協力をしていきたいと思いを。		
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が入退院した後、機能訓練のサービスを利用できるよう支援している。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	家族の意向に応じてグループホームから特養施設に入所できるよう協力施設として御願している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向により病院は異なりますが、料金等を説明し納得した上で、病院を決めて頂き、受診、往診の手続きを取っている。又利用者の症状に応じて眼科、皮膚科等の通院もおこなっている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在は認知症専門医ではないが、内科を中心とした診断や治療で、医師が必要とする場合は、MRI、CT等の医療を受けている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護をして頂いているので、定期的に相談し日常の健康管理のアドバイスを頂いている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者や家族が安心して治療に専念してもらえるよう2ヶ月の有余期間をもって退所の手続きをとっている。見舞い等に行った際、医師、家族との意向や経過、退院の見込みなどを情報を頂き、相談している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての研修で学んだ事について、ミーティングで話しますが、職員全員がまだ共有していません。緊急時のマニュアル等の内容で対応している。	○	ターミナルケアについて職員全員が学び共有するよう努力するよう努める。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の症状を見極める技術を学び、おかしいな、というきずきを大切にして、医師に相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の住居に移り住む時は、こちらの情報を提供し電話等で連絡があれば速やかに対処している。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報に関する書類は事務室に保管してプライバシーに配慮している。一人ひとりを尊重し、礼儀を重んじた声がけや対応に努めている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居時や面会時、日々の会話等から一人ひとりの希望等を把握するように努めている。入居者自身に決定してもらうことを基本とするほか、自分の意思をうまく表現できない入居者に対しては、いくつかの選択肢を提示して選んでもらう等の支援を行っている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の言動を急がず、一人ひとりのペースを尊重したケアを提供している。又其の日の天候や個々の体調に合わせて臨機応変に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>職員の送迎により、行きつけの美容院へ定期的に出かけている。又苑の方にも床屋さんが毎月来苑され一人ひとりの希望に合わせた支援が行われている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カラフルなランチョンマットを敷いて楽しく食事が摂れるよう工夫をしている。職員は入居者のそばで食べこぼし等へのさりげないサポートを行っている。又行事等の時は職員も入居者と一緒に食事を摂り楽しく食事をしている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みにあわせて、おやつや副食、飲み物を提供している。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄状況を記録する事により個々の排泄パターンを把握しており、事前誘導を行う等、極力おむつに頼らないケアを提供している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、各入居者週2回の入浴日としているが、希望があればいつでも入浴できるように対応している。入浴時は見守りを中心としながらも、必要に応じて介助している。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを記録し全職員が把握している。工作、カラオケ、簡単な運動等の日中のレクリエーション活動を促し、昼夜逆転を防ぎ、安眠できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な事を把握している。洗濯物たたみや食事前にランチョンマット等のセッティングを行ってもらおうと共に、終了後は感謝の言葉をかける等、個々に役割意識を持てるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者自らが金銭管理を行うことの重要性を職員は理解しており、日常にお金に触れる機会を設けている。自己管理できる入居者にはあまり高額にならない程度に管理してもらっている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、日向ぼっこや散歩等を積極的に促している。又庭でバーベキューを行ったり入居者の希望を聞きながら食事会等に出かけている。外出の時には其の日の入居者の状態に配慮するとともに、入居者に負担のかからない移動方法をとっている。	○	食材等の買い物時、外出には、利用者に声をかけ、行きたい利用者として買い物に出かけている。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り温泉旅行、デパートへの買い物、高原等に利用者をさそって、出かけている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をもらった時は読んでやり、電話が掛かってきたら受話器をあててやり、家族とコミュニケーションが取れやすいように支援をしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は家族の都合に合わせて対応しており、家族訪問時には声掛けを行ったりゆったりと過ごせる環境作りに配慮している。又宿泊の希望がある場合には食事や寝具を提供する体制が整備されている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解を深めるよう取り組んでおり、全職員が身体拘束はしないという認識で日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行う場合に備えて家族に説明して同意を得る等の体制が整備されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、入居者は自由に出入りをする事が出来る。外出傾向を察知できるよう見守りを行うとともに、察知した時は気づかれないように職員がさりげなく付き添って見守りを行っている。又無断外出時に備えて近隣の方たちに協力を呼びかけている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の日常生活のパターンを把握しコミュニケーションをとりながら、常に目配り気配りを忘れず事故につながるよう援助して行く		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管に関する取り決めがあり包丁を保管している台所のドアは夜間施錠したり、洗剤等は扉のある場所に保管する等、入居者の手や目にふれないように管理している。又現在の保管場所が入居者の状態に合わなくなった時には、再検討を行う体制が整備されている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等の報告書の様式が整備し発生時には報告書を作成するとともに申し送り等で再発防止に向けた話し合いをおこなっている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを整備している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡体制や役割分担等の取り決めがある。毎月、避難訓練を行っている。	○	夜間の非難を想定し、手つきの毛布を作成して、良い点、悪い点を評価し、改良している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	歩行困難になった時、歩行器でリハビリをし、立てなくなったら車椅子を購入していただきたいとの対応や、寝たきりになった場合は、電動ベッドの対応など対応策についてはなしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりのかかりつけ医を確保している他に協力医療機関を確保している。協力医療機関からは定期往診にきてもらい気軽に相談できている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者の状態を把握するとともに薬の用法や用量、副作用、医師の指示等が記録されたケース記録をもとに対応している。又薬の変更時はその都度副作用等を申し送りしている。服薬による状態変化時は状況判断するとともに、医師や家族に連絡している。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し個々のパターンを把握している。日頃から便秘の予防の為、食事を工夫して提供し身体を動かす働きかけを行っている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕の歯磨き、昼はうがいをを行い、口腔ケアが行われている。又一人ひとりの力量に応じて介助する等の支援を行っている。	○	歯科の医師と相談し、受診してもよいか、家族と連絡をとり受診するよう促している。
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のおおよその摂取カロリーを把握するまでには至っていない。水分等の摂取量の把握はおおよそできている。	○	病気の予防等につなげる為、栄養士の指導のもと、おおよそのカロリーを把握することに努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルは整備されているが、定期的な学習の機会を設けるまでには至っていない。その都度うがい、手洗いで対応している。職員も食事用、介護用のエプロンとで分けて対応している。	○	全職員が理解を深めるために、高齢者や施設で発生しやすい感染症に関するマニュアルを整備し、ホーム内での学習の機会を設けていきたい。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の台所の掃除はもちろんのこと、定期的なレンジ回り、換気扇、冷蔵庫内の掃除を徹底している。まとめ買いをさけ、随時必要な食材を購入するよう心がけ、残さないよう使い切る調理をする。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花の鉢植えや観葉植物等を置き家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。建物入り口には、ホーム名が書かれた看板を掲げ、フクロウの置物を飾り、親しみやすく配慮している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日射しの強さはカーテンで調整している。テレビの音量は適切にするように努めている。見やすい所には、時計やカレンダーを設置し、又季節感のある装飾品を飾り、常に日時や季節を認識できるように努めている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルやソファを置き廊下にも椅子を設置し入居者同士で団らんしたり、一人でゆっくり過ごせる場所が確保されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットやタンスはホームで用意したものであるが、それ以外の物品は持ち込んでもらうように家族に働きかけている。テレビや棚等生活用品の他、家族の写真等が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>定期的に窓をあけたり換気扇を使用して換気を行っている。温度、湿度計を設置し、冬季は加湿器の他にバスタオルをぬらして設置して空調管理をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>スロープ、手すりを設置し入居者が安全で自立した生活が送れるように配慮している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の場所間違いの状況を把握し、目印をつけて場所間違いを防ぐ工夫をしている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>食堂と居間が分離しているので、食事を摂っている利用者がいても、気にせずに居間でテレビを見てくつろげる空間をつくっている。食堂スペースは催し物が出来るよう工夫している。廊下部分を利用して歩行訓練ができるようになっている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員は常に利用者に対して、目配り、気配り、思いやりの気持ちで利用者と接している。
- ・研修で学んだ事を復命書、ミーティング時に内容を話し、介護の取り組みについて、もう一度、全職員が振り返りをしてもらっている。
- ・利用者、全職員での日帰り温泉旅行にでかける。
- ・利用者と職員と一緒に買い物やドライブ等に外出している。
- ・利用者、家族、職員との忘年会を開き、食事や催し物等で一日を過ごす機会を設けている。